



山梨県景気動向指数(CI)

平成31年3月分

景気の先行きを示す**先行指数**は 99.6 となり、前月と比較して4.7ポイント下降し、3か月ぶりの下降となった。

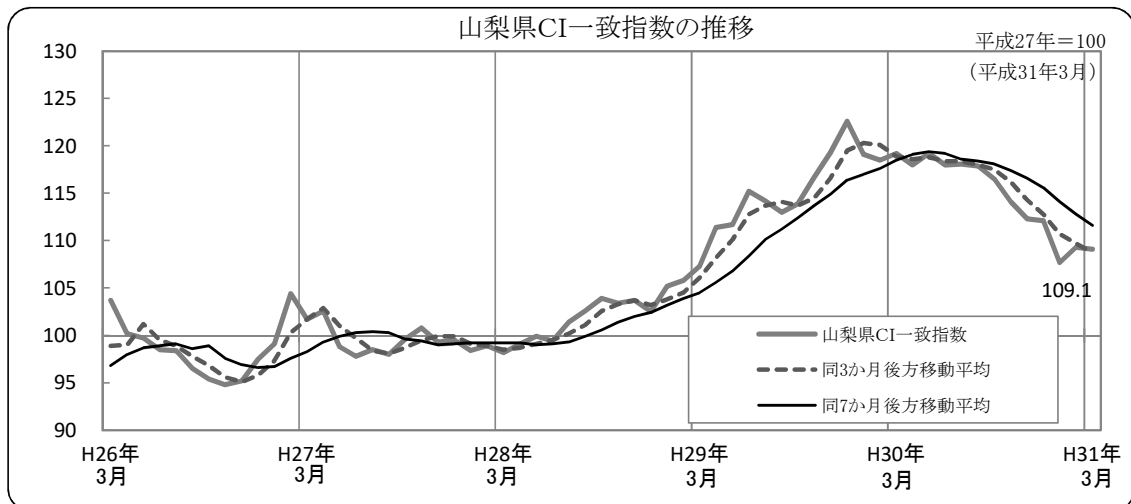
景気の現状を示す**一致指数**は 109.1 となり、前月と比較して0.2ポイント下降し、2か月ぶりの下降となった。

景気に遅れて動きを示す**遅行指数**は 111.1 となり、前月と比較して1.0ポイント上昇し、4か月連続の上昇となった。

<CI一致指数の前月差に対する個別系列の寄与度>

寄与度がプラスの系列	寄与度	寄与度がマイナスの系列	寄与度
百貨店・スーパー販売額[前]	0.89	鉱工業生産指数(鉱工業)	△ 0.91
県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数	1.41	所定外労働時間指数(製造業30人以上)	△ 1.04
		有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	△ 0.63

資料中「△」は負数を示す。
資料中「[前]」は前年同月比を示す。



山梨県 県民生活部 統計調査課

<問い合わせ先>

分析担当

電話 : 055-223-1344

FAX : 055-223-1347

E-Mail : toukei@pref.yamanashi.lg.jp

HP : https://www.pref.yamanashi.jp/toukei_2/

目 次

1	山梨県CI先行指数の動向	1
	(1) 山梨県CI先行指数の動き	
	(2) 山梨県CI先行指数の推移	
	(3) 山梨県CI先行指数 採用系列の寄与度	
2	山梨県CI一致指数の動向	2
	(1) 山梨県CI一致指数の動き	
	(2) 山梨県CI一致指数の推移	
	(3) 山梨県CI一致指数 採用系列の寄与度	
3	山梨県CI遅行指数の動向	3
	(1) 山梨県CI遅行指数の動き	
	(2) 山梨県CI遅行指数の推移	
	(3) 山梨県CI遅行指数 採用系列の寄与度	
4	CI時系列グラフ	4
5	山梨県CI時系列表	5
6	(参考)山梨県DIの動向	6
7	(参考)山梨県DI変化方向表	7
8	(参考)山梨県DI時系列グラフ	8
9	(参考)山梨県DI時系列表	9
10	(参考)DI累積一致指数時系列グラフ	10
11	山梨県景気動向指数個別系列の概要	11
12	山梨県景気動向指数個別系列の数値	12
13	利用の手引き	13

(注)以下の理由により、CIは全期間(平成17年1月分～平成31年2月分)遡及改定されている。

平成31年3月分のCI算出に当たり、四分位範囲を求めるデータ区間に1年分(平成30年1月分～平成30年12月分)を追加したため。

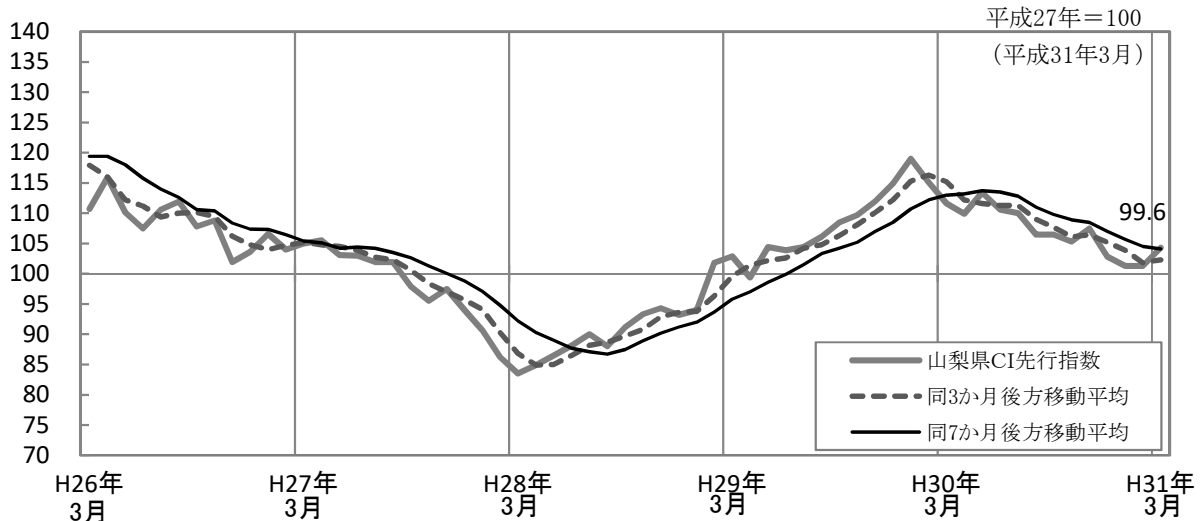
※ CIは、「外れ値」に左右されない四分位範囲を用いて算出。

1 山梨県CI先行指数の動向

(1) 山梨県CI先行指数の動き

3月の山梨県CI先行指数(H27=100)は99.6となり、前月と比較して4.7ポイント下降し、3か月ぶりの下降となりました。3か月後方移動平均は0.57ポイント下降し、2か月ぶりの下降、7か月後方移動平均は0.98ポイント下降し、11か月連続の下降となりました。

(2) 山梨県CI先行指数の推移



(3) 山梨県CI先行指数 採用系列の寄与度^{注1}

		平成30年		平成31年			
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
山梨県CI先行指数		107.5	102.8	101.3	101.3	104.3	99.6
	前月差(ポイント)	2.2	△ 4.7	△ 1.5	0.0	3.0	△ 4.7
1 鉱工業在庫率指数(逆) ^{注2}	前月比伸び率(%)	△ 5.6	△ 1.9	6.5	4.6	4.3	2.9
	寄与度	1.13	0.37	△ 1.18	△ 0.81	△ 0.76	△ 0.44
2 鉱工業生産指数(生産財)	前月比伸び率(%)	8.3	△ 3.3	3.0	△ 4.2	△ 6.3	4.5
	寄与度	2.34	△ 1.12	0.77	△ 1.32	△ 1.69	1.22
3 新規求人数 (新規学卒を除く全数)	前月比伸び率(%)	6.5	△ 5.2	2.1	2.9	1.5	△ 13.4
	寄与度	1.12	△ 1.09	0.30	0.46	0.15	△ 2.62
4 新設住宅着工戸数[前]	前月差	△ 44.2	△ 15.8	46.7	△ 4.5	113.5	△ 118.9
	寄与度	△ 1.57	△ 0.52	1.67	△ 0.14	3.18	△ 2.94
5 東証業種別株価指数 (電気機器)[前]	前月差	△ 18.5	△ 1.3	△ 10.6	3.0	5.4	3.9
	寄与度	△ 1.91	0.00	△ 1.08	0.45	0.73	0.53
6 法人企業景気予測調査・貴社の 景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)	前月差	△ 6.1	△ 6.1	△ 6.1	3.1	3.1	3.1
	寄与度	△ 1.16	△ 1.13	△ 1.09	0.60	0.57	0.53
7 新車登録・届出台数 (乗用車・貨物車)	前月比伸び率(%)	9.6	△ 2.8	△ 2.9	2.4	△ 2.9	△ 7.4
	寄与度	1.91	△ 0.56	△ 0.56	0.54	△ 0.57	△ 1.45
8 日経商品指数(42種総合)	前月比伸び率(%)	0.0	△ 1.2	△ 1.0	△ 0.1	1.4	0.3
	寄与度	△ 0.02	△ 0.92	△ 0.69	0.00	1.05	0.24
3か月後方移動平均		106.4	105.2	103.9	101.8	102.3	101.7
	前月差(ポイント)	0.33	△ 1.23	△ 1.33	△ 2.07	0.50	△ 0.57
7か月後方移動平均		108.5	107.0	105.7	104.5	104.1	103.2
	前月差(ポイント)	△ 0.35	△ 1.51	△ 1.33	△ 1.24	△ 0.32	△ 0.98

注1:山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

注2:(逆)とは逆サイクルのことを示し、採用系列が景気の動きに対し反対の方向に動くことをいう。

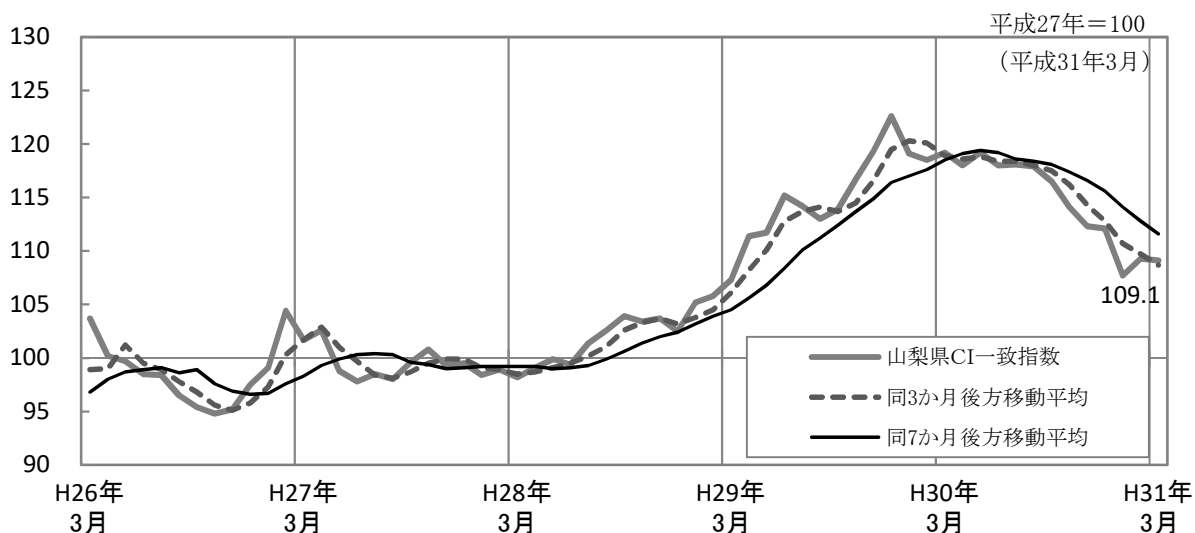
指数の前月差がプラスになれば、CI先行指数に対する寄与度のマイナス要因となり、マイナスになればプラス要因になる。

2 山梨県CI一致指数の動向

(1) 山梨県CI一致指数の動き

3月の山梨県CI一致指数(H27=100)は109.1となり、前月と比較して0.2ポイント下降し、2か月ぶりの下降となりました。3か月後方移動平均は1.0ポイント下降し、8か月連続の下降、7か月後方移動平均は1.25ポイント下降し、10か月連続の下降となりました。

(2) 山梨県CI一致指数の推移



(3) 山梨県CI一致指数 採用系列の寄与度^注

		平成30年		平成31年			
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
山梨県CI一致指数		114.1	112.3	112.1	107.7	109.3	109.1
	前月差(ポイント)	△ 2.4	△ 1.8	△ 0.2	△ 4.4	1.6	△ 0.2
1 鉱工業生産指数(鉱工業)	前月比伸び率(%)	6.3	△ 2.9	2.0	△ 3.9	△ 1.6	△ 3.5
	寄与度	0.79	△ 0.78	0.49	△ 1.03	△ 0.41	△ 0.91
2 百貨店・スーパー販売額[前]	前月差	△ 8.8	0.7	3.0	△ 5.5	4.6	3.3
	寄与度	△ 2.49	0.20	0.83	△ 1.48	1.22	0.89
3 所定外労働時間指数 (製造業30人以上)	前月比伸び率(%)	4.1	△ 3.7	△ 2.6	△ 0.5	△ 0.9	△ 4.3
	寄与度	0.98	△ 0.91	△ 0.64	△ 0.11	△ 0.20	△ 1.04
4 有効求人倍率 (新規学卒を除く全数)	前月差	△ 0.02	0.00	△ 0.01	△ 0.04	0.03	△ 0.01
	寄与度	△ 1.12	△ 0.37	△ 0.70	△ 1.69	0.71	△ 0.63
5 県立美術館・富士山世界遺産 センター(北館)来館者数	前月比伸び率(%)	△ 6.7	△ 0.3	△ 2.9	△ 2.5	1.9	27.1
	寄与度	△ 0.55	0.08	△ 0.17	△ 0.13	0.35	1.41
3か月後方移動平均		116.2	114.3	112.8	110.7	109.7	108.7
	前月差(ポイント)	△ 1.33	△ 1.87	△ 1.47	△ 2.13	△ 1.00	△ 1.00
7か月後方移動平均		117.4	116.6	115.6	114.1	112.8	111.6
	前月差(ポイント)	△ 0.73	△ 0.81	△ 1.02	△ 1.47	△ 1.26	△ 1.25

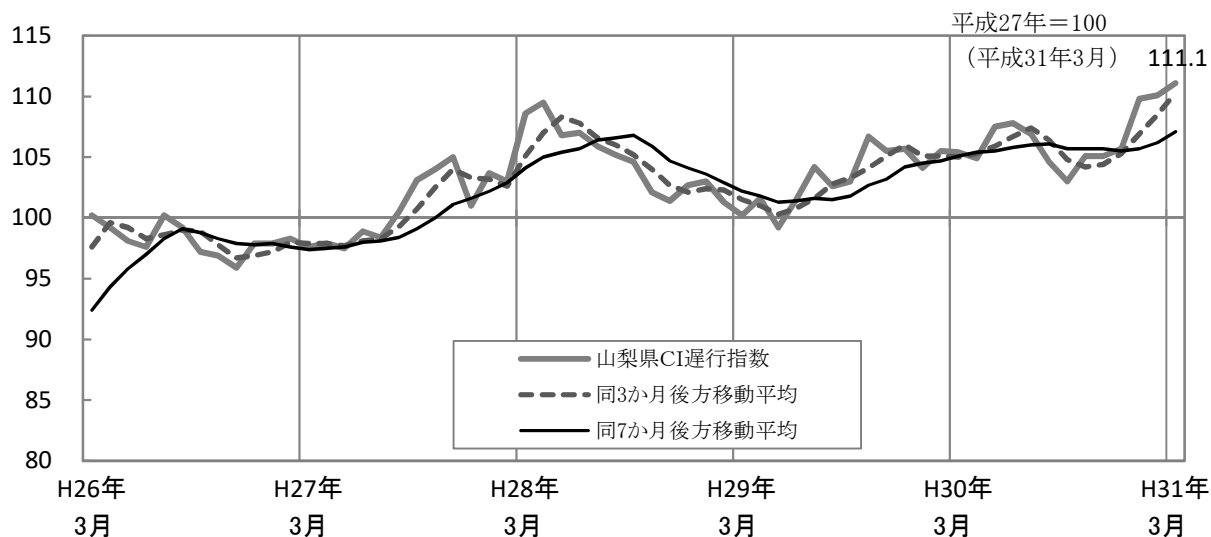
注:山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

3 山梨県CI運行指数の動向

(1) 山梨県CI運行指数の動き

3月の山梨県CI運行指数(H27=100)は111.1となり、前月と比較して1.0ポイント上昇し、4か月連続の上昇となりました。3か月後方移動平均は1.8ポイント上昇し、5か月連続の上昇、7か月後方移動平均は0.93ポイント上昇し、3か月連続の上昇となりました。

(2) 山梨県CI運行指数の推移



(3) 山梨県CI運行指数 採用系列の寄与度 ^{注1}

		平成30年			平成31年		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
山梨県CI運行指数		105.1	105.1	105.7	109.8	110.1	111.1
	前月差(ポイント)	2.1	0.0	0.6	4.1	0.3	1.0
1 実質法人企業設備投資(製造業)	前月比伸び率(%)	2.9	2.9	2.8			
	寄与度	0.90	0.86	0.82			
2 第3次産業活動指数(対事業所サービス)	前月比伸び率(%)	0.5	0.9	0.5	0.1	0.2	0.5
	寄与度	0.24	0.52	0.26	△ 0.05	0.02	0.25
3 家計消費支出(二人以上の世帯)	前月比伸び率(%)	0.4	△ 0.1	3.2	9.3	△ 1.5	20.3
	寄与度	0.04	0.00	0.28	0.96	△ 0.17	2.03
4 常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	前月差	1.5	△ 0.5	△ 5.5	12.6	△ 0.5	△ 6.1
	寄与度	1.71	△ 0.96	△ 1.32	2.64	△ 1.12	△ 1.70
5 有効求職者数(逆) ^{注2}	前月比伸び率(%)	1.5	0.5	1.0	△ 1.2	△ 1.0	0.3
	寄与度	△ 1.00	△ 0.42	△ 0.70	0.64	0.52	△ 0.38
6 法人事業税(調定額)	前月比伸び率(%)	△ 0.8	△ 5.2	18.2	△ 2.3	9.8	8.0
	寄与度	△ 0.11	△ 0.38	0.95	△ 0.28	0.64	0.50
3か月後方移動平均	前月差(ポイント)	104.2	104.4	105.3	106.9	108.5	110.3
	前月差(ポイント)	△ 0.60	0.17	0.90	1.57	1.66	1.80
7か月後方移動平均	前月差(ポイント)	105.7	105.7	105.5	105.7	106.2	107.1
	前月差(ポイント)	△ 0.04	0.02	△ 0.25	0.28	0.46	0.93

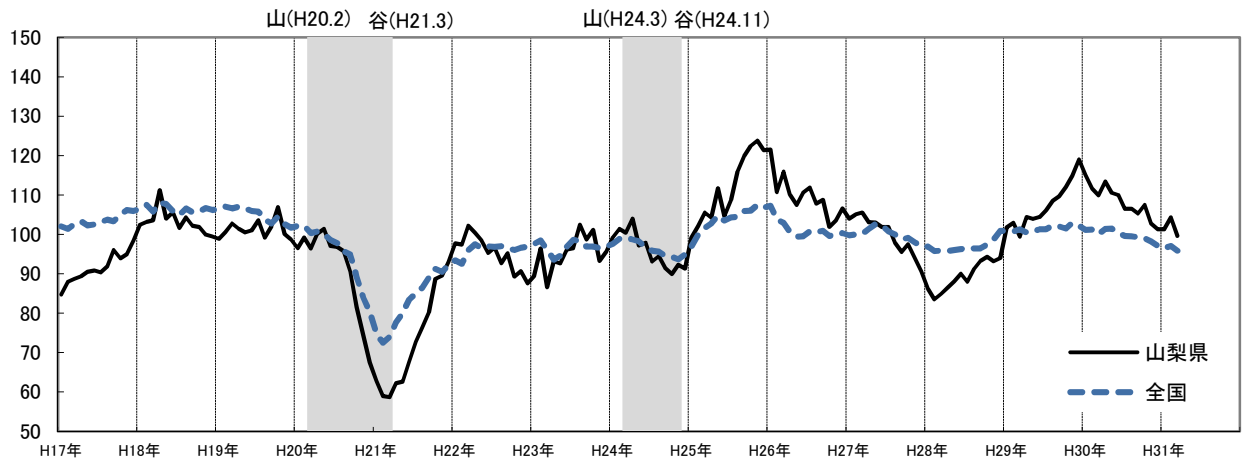
注1: 山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

注2: (逆)とは逆サイクルのことを示し、採用系列が景気の動きに対し反対の方向に動くことをいう。

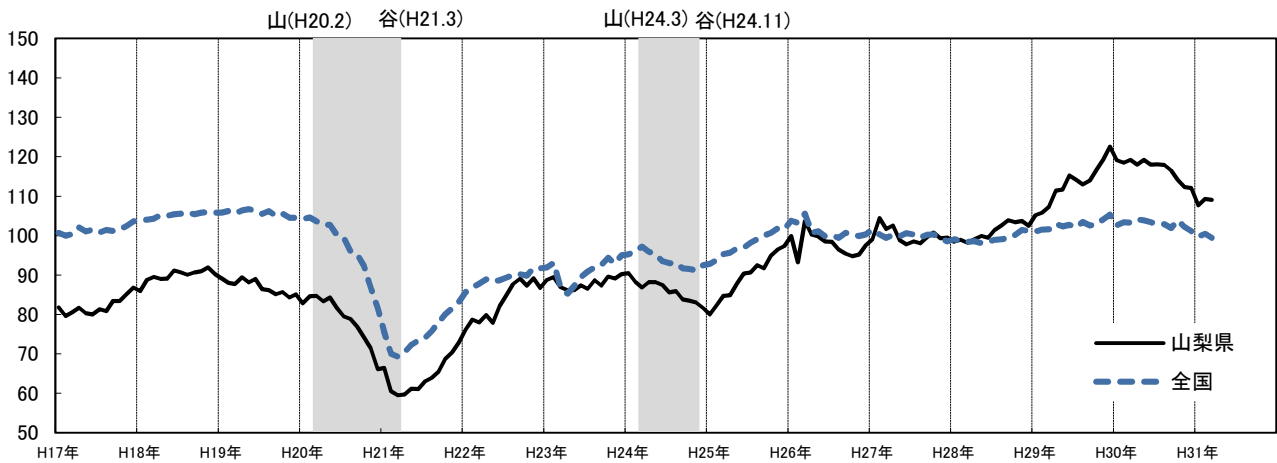
指数の前月差がプラスになれば、CI運行指数に対する寄与度のマイナス要因となり、マイナスになればプラス要因になる。

4 CI時系列グラフ

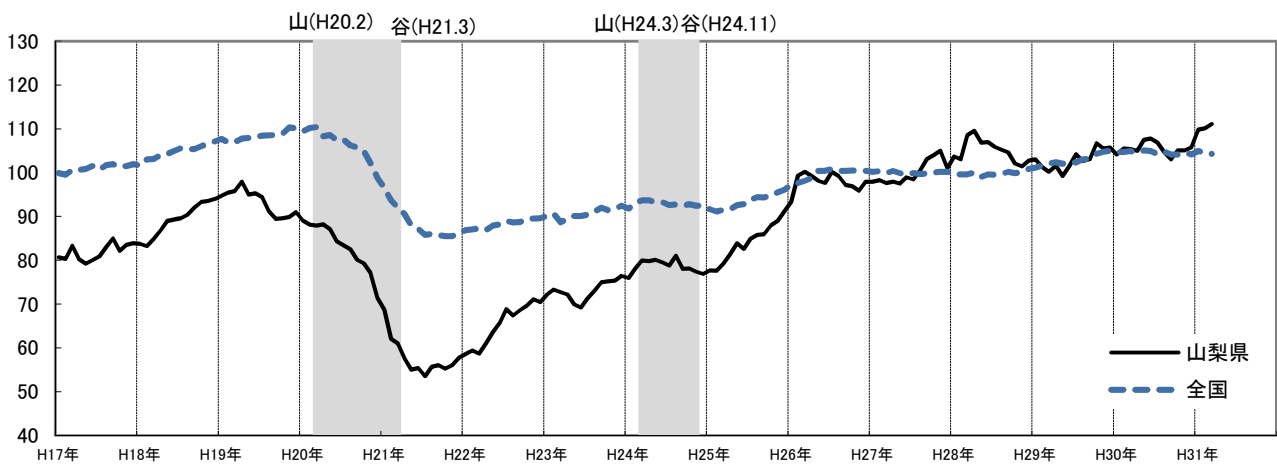
(先行指数)



(一致指数)



(遅行指数)



※ グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

5 山梨県CI時系列表

(先行指数)

H27=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2009	H21	62.8	59.0	58.7	62.2	62.6	67.7	72.7	76.4	80.3	88.7	89.5	93.0
2010	H22	97.7	97.4	102.2	100.4	98.5	95.3	96.7	92.7	95.2	89.3	90.7	87.6
2011	H23	89.4	96.4	86.6	93.2	92.6	96.2	96.5	102.4	98.7	101.1	93.3	95.6
2012	H24	99.2	101.4	100.4	104.0	97.2	97.9	93.1	94.5	91.5	89.9	92.3	91.3
2013	H25	99.2	102.1	105.5	104.2	111.7	104.6	108.8	115.9	119.9	122.4	123.8	121.4
2014	H26	121.5	110.7	115.9	110.1	107.5	110.6	111.9	107.8	108.8	101.9	103.6	106.6
2015	H27	104.0	105.0	105.5	103.1	103.0	101.9	101.9	97.9	95.5	97.5	94.0	90.7
2016	H28	86.2	83.5	84.9	86.5	88.1	90.0	88.0	91.2	93.3	94.3	93.2	94.0
2017	H29	101.8	102.9	99.4	104.4	103.9	104.4	106.1	108.5	109.7	112.0	114.9	119.0
2018	H30	115.1	111.6	109.9	113.4	110.6	110.0	106.5	106.5	105.3	107.5	102.8	101.3
2019	H31	101.3	104.3	99.6									

(一致指数)

H27=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2009	H21	66.4	60.5	59.5	59.7	61.2	61.1	63.0	63.9	65.5	68.7	70.4	72.9
2010	H22	76.2	78.7	78.0	79.8	77.9	82.1	84.9	87.7	89.1	87.3	89.2	86.7
2011	H23	88.8	89.5	86.9	86.2	86.2	87.4	86.5	88.7	87.3	89.6	89.1	90.2
2012	H24	90.5	88.3	86.8	88.2	88.2	87.5	85.6	85.9	83.8	83.5	83.0	81.6
2013	H25	80.0	82.3	84.7	84.9	87.9	90.4	90.6	92.5	91.7	94.9	96.5	97.4
2014	H26	99.9	93.2	103.7	100.2	99.7	98.5	98.4	96.5	95.4	94.8	95.2	97.5
2015	H27	99.1	104.4	101.7	102.6	98.8	97.8	98.5	98.0	99.6	100.8	99.3	99.5
2016	H28	98.4	98.9	98.2	99.1	99.9	99.4	101.4	102.6	103.9	103.4	103.7	102.5
2017	H29	105.2	105.8	107.3	111.4	111.7	115.2	114.2	113.0	113.9	116.7	119.3	122.6
2018	H30	119.1	118.5	119.2	118.0	119.2	118.0	118.1	117.9	116.5	114.1	112.3	112.1
2019	H31	107.7	109.3	109.1									

(遅行指数)

H27=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2009	H21	68.7	62.0	61.0	57.6	55.0	55.4	53.5	55.7	56.0	55.2	56.0	57.7
2010	H22	58.6	59.4	58.7	61.1	63.6	65.6	68.8	67.4	68.6	69.6	71.1	70.4
2011	H23	72.1	73.3	72.7	72.2	69.9	69.2	71.3	73.1	75.0	75.2	75.3	76.4
2012	H24	75.9	78.1	79.9	79.8	80.1	79.5	78.8	81.0	78.0	78.1	77.4	76.9
2013	H25	77.7	77.6	79.2	81.3	83.9	82.6	84.9	85.8	85.9	88.0	89.0	91.2
2014	H26	93.3	99.3	100.2	99.2	98.1	97.6	100.2	99.2	97.2	96.9	95.9	97.9
2015	H27	97.9	98.3	97.6	97.9	97.5	98.9	98.4	100.5	103.1	104.0	105.0	101.0
2016	H28	103.7	103.0	108.6	109.5	106.8	107.0	105.9	105.2	104.6	102.1	101.4	102.7
2017	H29	103.0	101.3	100.2	101.6	99.2	101.5	104.2	102.6	103.0	106.7	105.5	105.7
2018	H30	104.1	105.5	105.4	104.9	107.5	107.8	106.9	104.6	103.0	105.1	105.1	105.7
2019	H31	109.8	110.1	111.1									

※ 今回は、四分位範囲について年に一度の補正を行ったため、先行、一致、遅行全ての指数を遡及して改定しています。

6 (参考)山梨県DIの動向

先行指数 37.5% … 2か月ぶりに50%を下回った。
 一致指数 40.0% … 6か月連続で50%を下回った。
 遅行指数 100.0% … 4か月連続で50%を上回った。

個別系列の動向

	プラスの系列	連続 月数	マイナスの系列	連続 月数
先行 系列	東証業種別株価指数(電気機器)[前]	1	鉱工業在庫率指数(逆)	3
	法人企業景気予測調査・貴社の景況判断 BSI(中小企業 全産業 翌期)	2	鉱工業生産指数(生産財)	3
	日経商品指数(42種)	2	新規求人数(新規学卒を除く全数)	1
			新設住宅着工戸数[前]	1
			新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	3
一致 系列	百貨店・スーパー販売額[前]	2	鉱工業生産指数(鉱工業)	3
	県立美術館・富士山世界遺産センター (北館)来館者数	1	所定外労働時間指数(製造業30人以上)	4
			有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	4
遅行 系列	第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	7		
	家計消費支出(二人以上の世帯)	4		
	常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	3		
	有効求職者数(逆)	2		
	法人事業税(調定額)	4		

景気動向指数(DI)とは

・ 景気動向指数は、鉱工業生産指数や有効求人倍率など景気の動きに敏感な各経済部門から選ばれた系列の動きを統合して、単一の系列によって景気の動向を捉えようとしたもので、先行、一致、遅行の各系列の採用系列の変化を3か月前と比較し、改善した系列の割合で、景気の改善、悪化等その局面の方向性を示すものです。

※ 採用している基礎統計が確報値を公表するなどした場合、過去に遡って改訂します。

7 (参考)山梨県DI変化方向表

系列名	平成30年												平成31年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
先行系列	1 鉱工業在庫率指数(逆)*	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	-	-	-	
	2 鉱工業生産指数(生産財)	-	+	+	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	
	3 新規求人数(新規学卒を除く全数)	-	+	-	-	-	+	+	+	-	+	-	+	-	
	4 新設住宅着工戸数[前]	-	-	+	+	+	+	+	-	-	-	+	+	-	
	5 東証業種別株価指数(電気機器)[前]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	
	6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)注1	-	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	
	7 新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	-	-	+	+	-	+	-	+	-	+	-	-	-	
	8 日経商品指数(42種)	-	+	+	+	-	-	-	+	-	-	-	+	+	
拡張系列	0	4	5	5	2	4	3	5	1	4	1	4	3		
採用系列	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8		
先行指数(D.I.) (%)	0.0	50.0	62.5	62.5	25.0	50.0	37.5	62.5	12.5	50.0	12.5	50.0	37.5		
一致系列	1 鉱工業生産指数(鉱工業)	-	+	+	+	+	-	-	-	-	+	-	-	-	
	2 百貨店・スーパー販売額[前]	-	-	-	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	
	3 所定外労働時間指数(製造業30人以上)	+	-	+	-	-	-	+	+	+	-	-	-	-	
	4 有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	-	+	-	-	0	+	+	+	0	-	-	-	-	
	5 県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数	-	-	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	+	
拡張系列	1	2	3	3	3.5	3	4	2	1.5	1	0	1	2		
採用系列	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		
一致指数(D.I.) (%)	20.0	40.0	60.0	60.0	70.0	60.0	80.0	40.0	30.0	20.0	0.0	20.0	40.0		
遅行系列	1 実質法人企業設備投資(製造業)注1	-	+	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	
	2 第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	+	+	+	+	-	0	+	+	+	+	+	+	+	
	3 家計消費支出(二人以上の世帯)	-	-	+	-	+	-	-	-	-	+	+	+	+	
	4 常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	-	-	-	+	-	-	-	+	+	-	+	+	+	
	5 有効求職者数(逆)	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	-	+	+	
	6 法人事業税(調定額)	+	+	-	-	-	+	+	+	-	+	+	+	+	
拡張系列	3	4	3	3	2	2.5	3	3	3	4	4	5	5		
採用系列	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5		
遅行指数(D.I.) (%)	50.0	66.7	50.0	50.0	33.3	41.7	50.0	50.0	50.0	66.7	80.0	100.0	100.0		

注1 「法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)」及び実質法人企業設備投資(製造業)は四半期データであるため、四半期に該当する3か月のそれぞれの変化量を等しいとして線形補間しています。(4-6月期であれば6月に四半期値を代入)
注2 今回修正した指数は斜体文字で表しています。

(参考：経済関係レポート等抜粋)

月例経済報告 (令和元年5月・内閣府・5月24日公表)

景気は、輸出や生産に弱さが続いているものの、緩やかに回復している。

先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響に一層注意するとともに、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

景気動向指数 (平成31年3月分・内閣府経済社会総合研究所・5月27日公表)

景気動向指数(CI一致指数)は、悪化を示している。

CI先行指数 97.1 → 95.9

CI一致指数 100.4 → 99.4

CI遅行指数 104.4 → 104.3

経済・物価情勢の展望 (2019年4月分・日本銀行・4月26日公表)

日本経済の先行きを展望すると、当面、海外経済の減速の影響を受けるものの、2021年度までの見通し期間を通じて、景気の拡大基調が続くとみられる。

山梨県金融経済概観 (2019年5月・日本銀行甲府支店・5月16日公表)

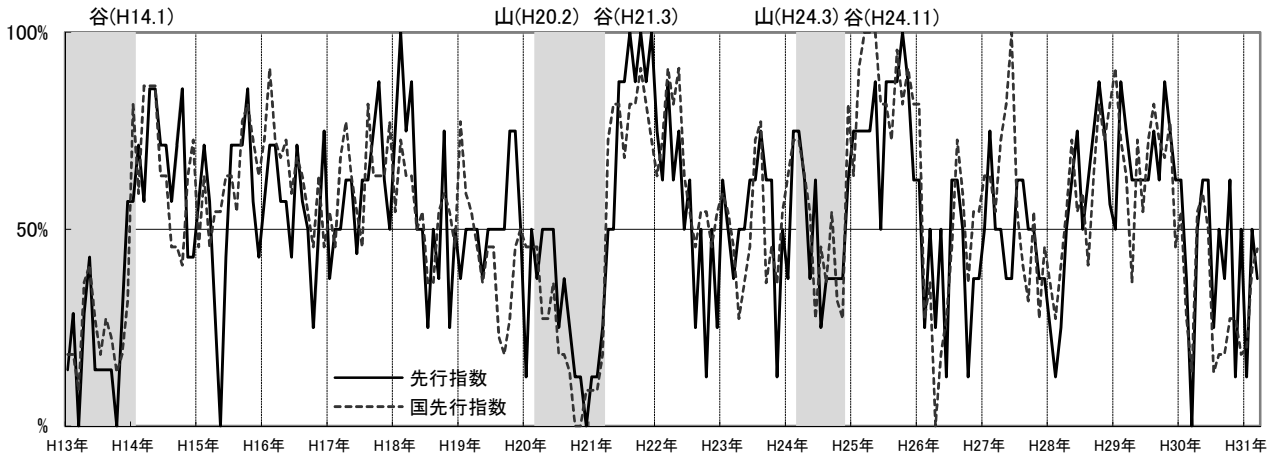
県内景気は、足もと弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに拡大している。

個人消費は、底堅く推移している。

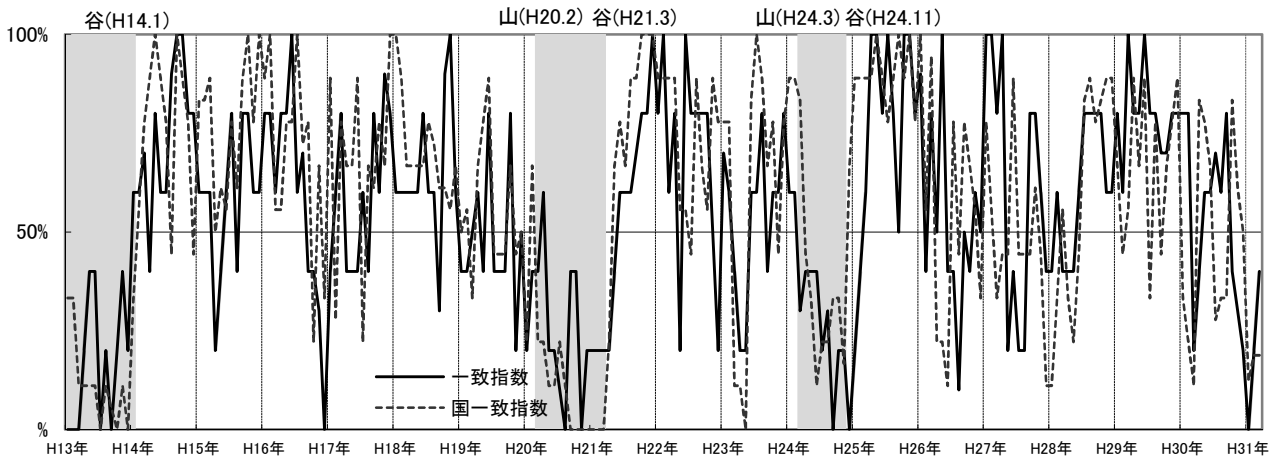
生産は、全体としては高めの水準ながら、足もと弱めの動きとなっている。

8 (参考)山梨県DI時系列グラフ

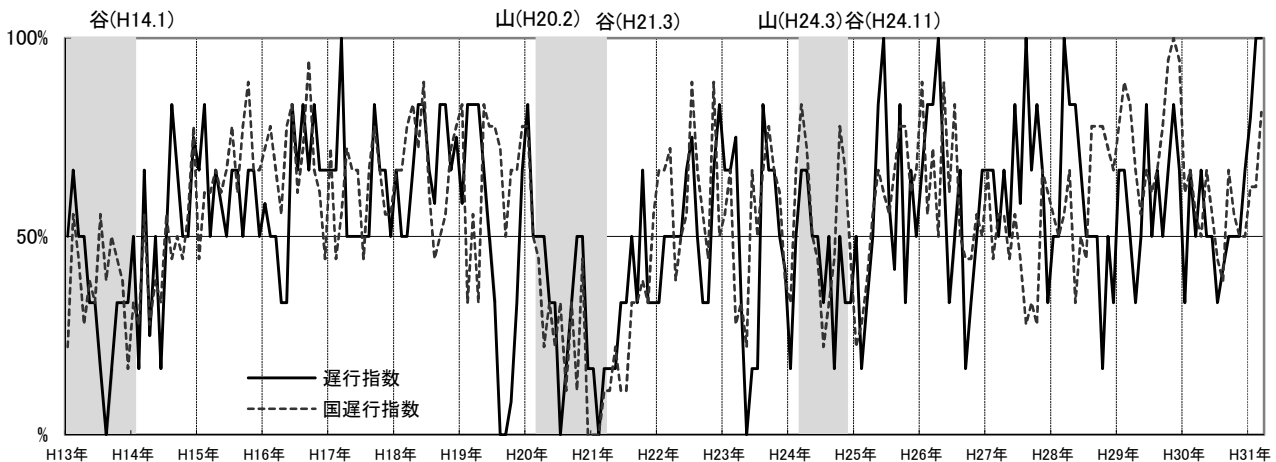
(先行指数)



(一致指数)



(遅行指数)



※ グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

9 (参考)山梨県DI時系列表

(先行指数)

単位(%)

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2009	H21	12.5	12.5	25.0	50.0	50.0	87.5	87.5	100.0	87.5	100.0	87.5	100.0
2010	H22	75.0	62.5	87.5	62.5	75.0	50.0	62.5	25.0	50.0	12.5	50.0	25.0
2011	H23	62.5	50.0	37.5	50.0	50.0	62.5	62.5	75.0	62.5	62.5	12.5	50.0
2012	H24	37.5	75.0	75.0	62.5	37.5	62.5	25.0	37.5	37.5	37.5	37.5	62.5
2013	H25	75.0	75.0	75.0	75.0	87.5	50.0	87.5	87.5	87.5	100.0	87.5	62.5
2014	H26	62.5	25.0	50.0	25.0	50.0	12.5	62.5	62.5	50.0	12.5	37.5	37.5
2015	H27	50.0	75.0	50.0	50.0	37.5	37.5	62.5	62.5	50.0	50.0	37.5	37.5
2016	H28	25.0	12.5	25.0	50.0	62.5	75.0	50.0	62.5	75.0	87.5	75.0	56.3
2017	H29	50.0	87.5	75.0	62.5	62.5	62.5	62.5	75.0	62.5	87.5	75.0	62.5
2018	H30	62.5	37.5	0.0	50.0	62.5	62.5	25.0	50.0	37.5	62.5	12.5	50.0
2019	H31	12.5	50.0	37.5									

(一致指数)

単位(%)

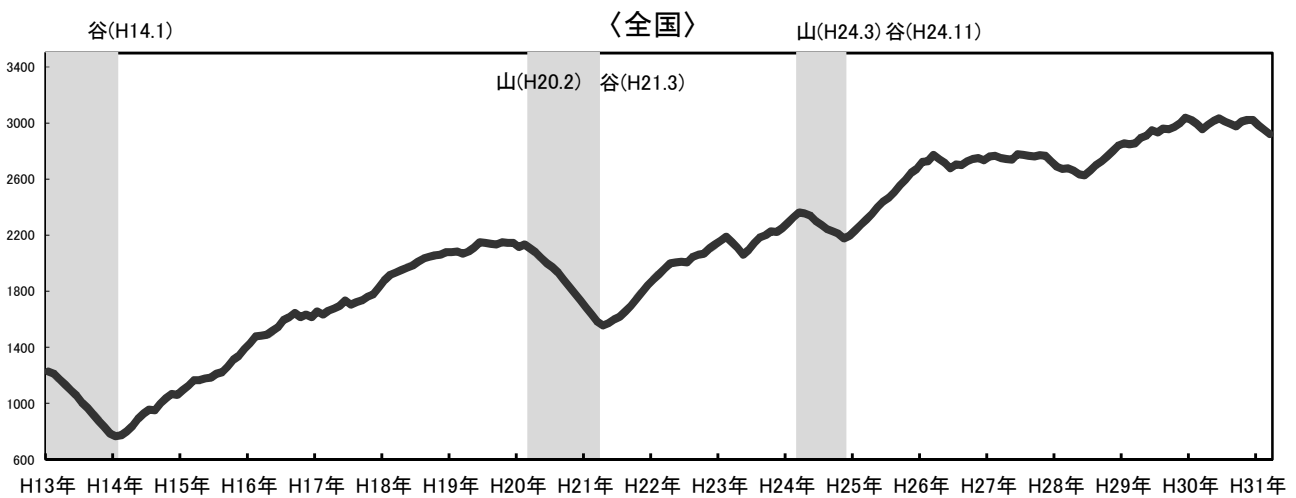
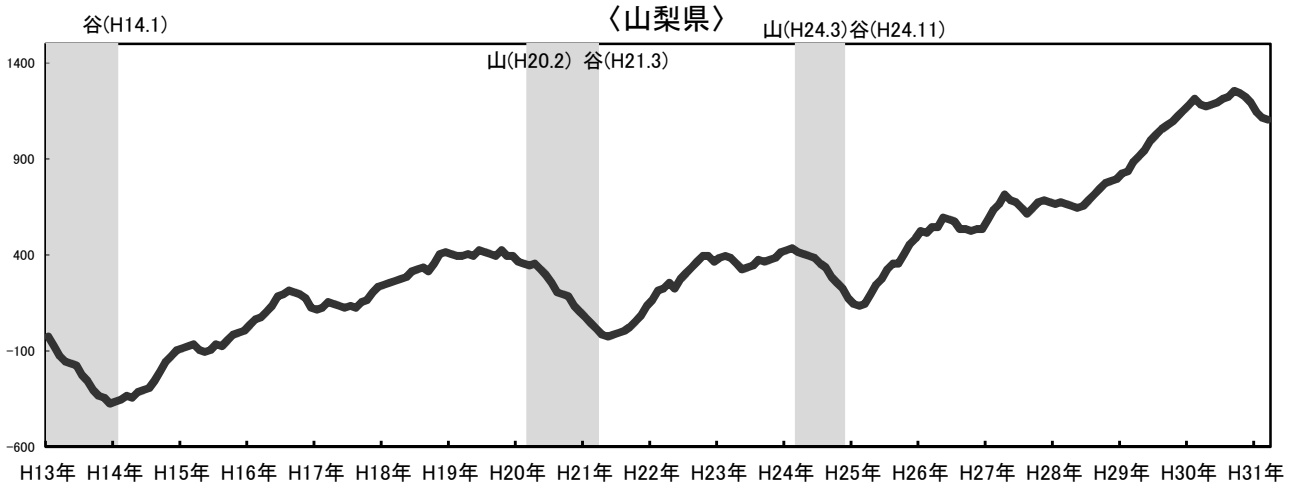
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2009	H21	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	60.0	60.0	60.0	70.0	80.0	80.0	100.0
2010	H22	80.0	100.0	60.0	80.0	20.0	100.0	80.0	80.0	80.0	80.0	50.0	20.0
2011	H23	70.0	60.0	40.0	20.0	20.0	60.0	60.0	80.0	40.0	60.0	60.0	80.0
2012	H24	60.0	60.0	30.0	40.0	40.0	40.0	20.0	30.0	0.0	20.0	20.0	0.0
2013	H25	20.0	40.0	60.0	100.0	100.0	80.0	100.0	80.0	50.0	100.0	100.0	80.0
2014	H26	90.0	40.0	80.0	50.0	100.0	40.0	40.0	10.0	50.0	40.0	60.0	50.0
2015	H27	100.0	100.0	80.0	100.0	20.0	40.0	20.0	20.0	80.0	80.0	60.0	40.0
2016	H28	40.0	60.0	40.0	40.0	40.0	60.0	80.0	80.0	80.0	80.0	60.0	60.0
2017	H29	80.0	60.0	100.0	80.0	80.0	100.0	80.0	80.0	70.0	70.0	80.0	80.0
2018	H30	80.0	80.0	20.0	40.0	60.0	60.0	70.0	60.0	80.0	40.0	30.0	20.0
2019	H31	0.0	20.0	40.0									

(遅行指数)

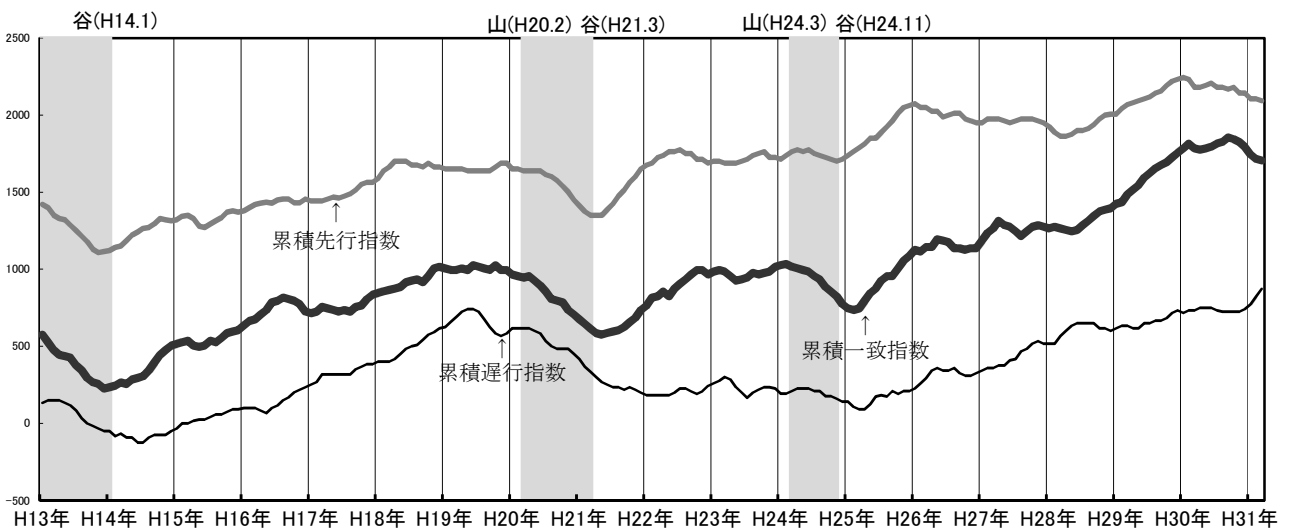
単位(%)

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2009	H21	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	33.3	33.3	50.0	33.3	66.7	33.3	33.3
2010	H22	33.3	50.0	50.0	50.0	50.0	66.7	75.0	50.0	33.3	33.3	66.7	83.3
2011	H23	66.7	66.7	75.0	33.3	0.0	16.7	16.7	83.3	66.7	66.7	50.0	41.7
2012	H24	16.7	50.0	66.7	66.7	50.0	50.0	33.3	50.0	16.7	50.0	33.3	33.3
2013	H25	50.0	16.7	33.3	50.0	83.3	100.0	58.3	41.7	83.3	33.3	66.7	50.0
2014	H26	66.7	83.3	83.3	100.0	66.7	33.3	50.0	66.7	16.7	33.3	50.0	66.7
2015	H27	66.7	66.7	50.0	66.7	50.0	83.3	58.3	100.0	66.7	83.3	66.7	33.3
2016	H28	50.0	50.0	100.0	83.3	83.3	66.7	50.0	50.0	50.0	16.7	50.0	33.3
2017	H29	66.7	66.7	50.0	33.3	50.0	83.3	50.0	66.7	50.0	66.7	83.3	66.7
2018	H30	33.3	66.7	50.0	66.7	50.0	50.0	33.3	41.7	50.0	50.0	50.0	66.7
2019	H31	80.0	100.0	100.0									

10 DI累積一致指数時系列グラフ



山梨県DI累積指数グラフ(先行・一致・遅行)



(注1) 累積指数グラフは、景気の局面や山・谷を視覚的に捉えることができます。ただし、グラフ上の山の大きさや高さは景気の強弱や水準とは無関係です。なお、累積指数は各月のDI指数を次式により累積したものです。

$$\text{累積DI} = \text{前月までの累積DI} + (\text{当月のDI} - 50)$$

(注2) グラフを見やすくするため、先行指数は1500、一致指数は600を加算しています。

(注3) グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

11 山梨県景気動向指数個別系列の概要

	系列名	季節調整方法等	作成機関	資料出所
先行系列	1 鉱工業在庫率指数(逆)	X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課 商工業担当	鉱工業指数
	2 鉱工業生産指数(生産財)	X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課 商工業担当	鉱工業指数
	3 新規求人数(新規学卒を除く全数)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	時系列職業紹介統計表
	4 新設住宅着工戸数[前]	前年同月比	国土交通省	建築着工統計調査
	5 東証業種別株価指数(電気機器)[前]	前年同月比	(株)東京証券取引所	株価指数・株価平均
	6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI (中小企業 全産業 翌期)◆ ^{注1}	実数	甲府財務事務所	法人企業景気予測調査結果 (山梨県分)
	7 新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	X-12-ARIMA※	山梨県自動車販売店協会 山梨県軽自動車協会	新車登録・届出状況
	8 日経商品指数(42種総合)	原数値	(株)日本経済新聞社	日本経済新聞
一致系列	1 鉱工業生産指数(鉱工業)	X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課 商工業担当	鉱工業指数
	2 百貨店・スーパー販売額[前]	前年同月比	経済産業省	商業動態統計調査
	3 所定外労働時間指数(製造業30人以上)	X-12-ARIMA※	山梨県県民生活部統計調査課 人口労働担当	県毎月勤労統計調査
	4 有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	時系列職業紹介統計表
	5 県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数 ^{注2}	X-12-ARIMA※	山梨県教育委員会学術文化財課 山梨県県民生活部世界遺産富士山課	作成機関資料
遅行系列	1 実質法人企業設備投資(製造業)◇ ^{注1}	X-12-ARIMA	財務省	法人企業統計季報
	2 第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	X-12-ARIMA	経済産業省	第3次産業活動指数
	3 家計消費支出(二人以上の世帯)	X-12-ARIMA※	総務省	家計調査報告
	4 常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	前年同月比 X-12-ARIMA※	山梨県県民生活部統計調査課 人口労働担当	県毎月勤労統計調査
	5 有効求職者数(逆)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	労働市場の動き
	6 法人事業税(調定額)	X-12-ARIMA※	山梨県総務部税務課	県税徴収状況(作成機関資料)

※山梨県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

注1) ◆及び◇は、四半期データであるため、月次のDIを計算するため四半期に該当する3か月のそれぞれの変化量を等しいと仮定して線形補間しています(4-6月期であれば6月に四半期値を代入)。

注2) 平成28年5月まで富士ビジターセンター来館者数を使用し、平成28年6月から富士山世界遺産センター(北館)来館者数を使用しています。

12 山梨県景気動向指数個別系列の数値

(先行系列)

系列 年月	鉱工業在庫率 指数(逆)	鉱工業生産指数 (生産財)	新規求人 数(新規学卒を除く 全数)	新設住宅 着工戸数[前]	東証業種別株価 指数(電気機器) [前]	法人企業景気予測 調査・貴社の景況 判断BSI(中小企業 全産業 翌期)	新車登録・ 届出台数 (乗用車・貨物 車)	日経商品指数 (42種)
	季節調整値 %	季節調整値 H27=100	季節調整値 人	前年同月比 %	前年同月比 %	実数 %ポイント	季節調整値※ 台	原指数 1970年=100
H30. 3	86.6	117.3	6,605	80.3	122.2	△ 2.4	3,068	184.314
4	92.1	122.0	6,599	82.9	123.2	0.6	3,307	186.501
5	91.8	119.3	5,966	90.8	115.6	3.5	3,254	186.685
6	98.0	123.4	6,168	86.9	111.3	6.5	3,173	185.395
7	115.8	119.1	6,433	91.1	108.1	7.3	3,179	184.270
8	140.8	118.2	6,408	130.1	109.6	8.1	3,383	183.405
9	105.5	111.1	6,328	120.3	105.5	8.9	3,118	184.781
10	99.6	120.3	6,739	76.1	87.0	2.8	3,416	184.792
11	97.7	116.3	6,389	60.3	85.7	△ 3.2	3,321	182.523
12	104.0	119.8	6,525	107.0	75.1	△ 9.3	3,224	180.684
H31. 1	108.8	114.8	6,717	102.5	78.1	△ 6.2	3,301	180.567
2	113.5	107.6	6,820	216.0	83.5	△ 3.1	3,205	183.091
3	116.8	112.4	5,907	97.1	87.4	0.0	2,968	183.632

(一致系列)

系列名 年月	鉱工業生産指数 (鉱工業)	百貨店・スーパー 販売額[前]	所定外労働時間 指数(製造業30 人以上)	有効求人倍率 (新規学卒を除く 全数)	県立美術館・富 士山世界遺産セ ンター(北館)来 館者数
	季節調整値 H27=100	前年同月比 %	季節調整値※ H27=100	季節調整値 倍	季節調整値※ 人
H30. 3	124.7	101.1	111.9	1.47	41,306
4	128.6	100.7	109.5	1.46	38,556
5	133.0	99.3	112.7	1.45	40,973
6	130.2	103.0	105.8	1.45	41,975
7	128.8	102.5	106.1	1.46	43,681
8	122.8	101.7	107.9	1.47	47,596
9	114.3	103.8	107.7	1.49	44,015
10	121.5	95.0	112.1	1.47	41,063
11	118.0	95.7	108.0	1.47	40,961
12	120.3	98.7	105.2	1.46	39,764
H31. 1	115.6	93.2	104.7	1.42	38,784
2	113.8	97.8	103.8	1.45	39,524
3	109.8	101.1	99.3	1.44	50,224

(遅行系列)

系列名 年月	実質法人企業設 備投資(製造業)	第3次産業活動 指数(対事業所 サービス業)	家計消費支出 (二人以上の世 帯)	常用雇用指数 (製造業30人 以上)[前]	有効求職者数 (逆)	法人事業税 (調定額)
	季節調整値 百万円	季節調整値 H22=100	季節調整値※ 円	前年同月比 季節調整値※ %	季節調整値 人	季節調整値※ 百万円
H30. 3	3,807,048	108.8	289,612	96.4	12,259	2,000
4	3,948,362	108.9	239,143	96.4	12,352	2,049
5	4,089,675	108.4	291,896	96.8	12,421	1,869
6	4,230,989	109.2	270,413	96.6	12,386	1,724
7	4,126,565	108.8	316,717	95.6	12,364	1,992
8	4,022,140	108.4	274,114	95.8	12,374	1,988
9	3,917,716	109.3	253,768	95.6	12,372	2,014
10	4,032,916	109.8	254,819	97.1	12,559	1,998
11	4,148,116	110.8	254,467	96.6	12,616	1,894
12	4,263,316	111.4	262,556	91.1	12,743	2,238
H31. 1		111.5	286,940	103.7	12,589	2,186
2		111.7	282,657	103.2	12,468	2,401
3		112.2	340,099	97.1	12,507	2,593

※ 山梨県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

利用の手引き

1 景気動向指数の概要

○ 景気動向指数

景気動向指数は、生産、雇用など様々な経済活動での重要かつ景気に敏感に反応する指標の動きを統合することによって、景気の現状把握及び将来予測に役立てるために作成された指標です。

なお、景気動向指数は、各経済部門から選ばれた指標の動きを統合して、単一の指標によって景気を把握しようとするものであり、すべての経済指標を総合的に勘案して景気を捉えようとするものではないことに配慮する必要があります。

○ CIとDI

景気動向指数には、コンポジット・インデックス(CI:Composite Index)とディフュージョン・インデックス(DI:Diffusion Index)があります。CIは構成する指標の動きを合成することで景気変動の大きさやテンポ(量感)を、DIは構成する指標のうち、改善している指標の割合を算出することで景気各経済部門への波及の度合い(波及度)を測定するための指数です。CIとDIは共通の指標を採用しており、採用系列数は先行指数8、一致指数5、遅行指数6の19系列です。

○ 先行指数、一致指数、遅行指数

CIとDIには、それぞれ、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3つの指数があります。景気の現状把握に一致指数を利用し、先行指数は、一般的に、一致指数に数か月先行することから、景気の動きを予測する目的で利用します。遅行指数は、一般的に、一致指数に数か月から半年程度遅行することから、事後的な確認に用います。

2 山梨県CI

○ 目的

山梨県CIの作成は、主として景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としています。

○ 利用の仕方

一般的に、山梨県CI一致指数が上昇している時は景気の拡張局面、低下している時は後退局面であり、山梨県CI一致指数の動きと景気の転換点は概ね一致します。山梨県CI一致指数の変化の大きさから、景気の拡張又は後退のテンポを読み取ることができます。月ごとの山梨県CI一致指数には不規則な動きも含まれていることから、移動平均値をとることにより、ある程度の期間の月々の動きをならす必要があります。そのことから、毎月の統計表には、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。

○ 作成方法

山梨県CIの作成方法は、内閣府のCI作成方法に準じています。山梨県CIの作成方法を簡潔に述べると、山梨県DIの個別指標における前月比変化率を過去の平均的な変動と比較することによって基準化し、それらの平均を求めて合成し、指数化します。詳しくは内閣府のホームページをご覧ください。(<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di3.html#link002>)

3 山梨県DI

○ 目的

山梨県DIの作成は、景気拡張の動きの各経済部門への波及度合いを測定することを目的としています。

○ 利用の仕方

山梨県DIは採用系列のうち改善している指標の割合のことで、景気各経済部門への波及の度合いを表します。月々の振れがあるものの、一般的には景気拡張局面では50%を上回り、後退局面では50%を下回る傾向があります。

なお、山梨県DIは、景気が拡張傾向あるいは後退傾向のいずれにあるかを判断する指標であり、景気変化の強さを表すものではありません。

○ 作成方法

各個別系列の数値を3か月前と比較して、増加したときは+を、減少したときは-を、変化のなかったときは0をつけます。(景気が良ければ減少し、悪ければ増加する性質のある逆サイクルの系列は増加を-、減少を+とします。)

その上で、先行、一致、遅行の各系列ごとに、採用系列数に占める拡張系列数(+の数)の割合(%)を求めます。

$$DI = \text{拡張系列数} / \text{採用系列数} \times 100 (\%)$$

(0 (もちあい) は0.5としてカウントします。)

4 CIとDIの違い

DIは景気各経済部門への波及の度合いを表す指標です。そのため、各採用系列が大幅に拡張しても、小幅に拡張しても、拡張系列の割合が同じならば同じ山梨県DIが計測されます。一方、CIは景気の強弱を定量的に計測する指標ですので、DIが同じ数値で計測されたとしても、各採用系列が大幅に拡張していればCIも大幅に上昇し、各採用系列が小幅に拡張しているならばCIも小幅に上昇します。このように、CIはDIでは計測できない景気の山の高さや谷の深さ、拡張や後退の勢いといった景気の「量感」を計測することができます。

一方、DIが異なる数値で計測されたとしても、多くの系列で小幅に拡張した時と、一部の系列が大幅に上昇した時とで、同じCIの上昇幅が得られる場合があります。このように、CIの変化幅そのものからは経済部門の相違を把握することが難しいため、CIの変化幅に対する各採用系列の寄与度やDIをあわせて利用することが望ましいとされています。

5 山梨県景気動向指数の改定

○ 遡及改定等

採用している基礎統計が確報値を公表するなどした場合、過去にさかのぼって改定します。また、未発表の系列がある月については、現時点で得られる値のみで求めています。その際得られなかった値については空欄としています。

○ 採用系列の入替え

景気動向指数の作成にあたっては、その採用系列が現在の景気の動きを十分に反映しているかどうか点検を行い、必要に応じて入替えを行っています。

山梨県では、平成28年4月分から採用系列の入替えを実施しました。

○ 公表時期

平成28年4月分から、公表時期を対象月の3か月後の月初めから翌々月末に変更しました。

○ 公表形態の移行

山梨県においては、平成23年12月分からDI(試行版)の公表を開始し、平成25年11月分から試行版を外すとともに、CI一致指数を参考値として公表開始しました。また、平成28年4月分から従来のCI一致指数に加え、CI先行指数及びCI遅行指数を参考値として併せて公表を開始しました。

その後、景気変動の大きさや量感を把握することがより重要になったため、平成28年10月分からCIを中心とした公表形態に移行しました。なお、DIも景気の波及度を把握するために重要な指標ですので、参考指標として引き続き作成・公表しています。

次回の公表：平成31年4月分の公表は令和元(2019)年6月末の予定です。
--